

令和7年 飯田市教育委員会7月定例会会議録

令和7年7月24日（木） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
副参事兼中央図書館長	瀧本 明子
教育政策課長	上沼 昭彦
学校教育課長	伊藤 寿
教育センター所長	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	小林 和弘
文化会館副館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
教育政策課総務係長	北澤 五月

令和 7 年 飯田市教育委員会 7 月定例会会議録

令和 7 年 7 月 2 4 日（木） 午後 3 時 0 0 分開会

日程第 1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、定刻になりましたので、7 月の教育委員会定例会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。

最初に、日程第 1 でございますが、麦島委員から欠席する旨の届けが出されておりますのでご報告を申し上げます。

日程第 2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 2 にまいります。「会期の決定」を議題といたしますが、本日の定例会の会期につきまして、本日 7 月 24 日の 1 日間といたします。

ご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、本日 7 月 24 日 1 日間ということで決定をいたします。

次の日程に進みます。

日程第 3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第 3、「会議録署名委員の指名」ですが、会議録署名委員として、北澤正光教育長職務代理者を指名いたします。よろしくお願いいたします。

○教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） 次の日程に進みます。

日程第 4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 6 月定例会の会議録につきまして承認を求めます。

あらかじめ原案を各委員の方にお送りしておりますが、内容につきまして何かご異議等ございませんか。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、6月定例会の会議録は、承認をされました。

次に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「7月教育委員会定例会 教育長報告事項」の資料を御覧いただきたい
と思います。今回は、画面で見ていただくつもりで写真等を入れましたので、コピーだと
ちょっと分かりづらくて申し訳ありません。

先月の20日になりますが、高校ESD塾というのが、教育委員会のものじゃなくて学輪
IIDAの事業として行われていますが、最近新聞報道でも「遠山地区でフィールドワー
クが始まっている」というような話もありました。その一つとして、地元の高校生と大学
の先生、あるいは大学生の皆さんが、このときは都留文科大学でしたが、その学生が来て
みえました。一年間かけて地域を学んで探求していく授業3回目ということで視察する機
会をいただきまして、高校生12名が飯田市のみならず、郡部の高校生も参加していました。

もう3回目だったので、そこに始まる前に2人の高校生に話を聞いたところ、全然別の
高校で出身も違って「チラシを見てきたんだ」と。「一人で来た」ということで、「今
まで2回やってみてどう」って聞いたら、「とても面白かった」という声を聞くことがで
きました。

たしかに3回目を私が一緒に聞かせてもらおうと、大学の先生がまず専門の話の前に、道
徳の授業的だという言い方は正しいかどうか分かりませんが、「突破力の秘訣」というよ
うな題名で、ご自身がどういうふうに、いろんなことに壁にぶつかったときにどのように
突破してきたかっていうお話をいただきました。非常に興味深い話を高校生が聞けるな
と思いました。その後の各グループに分かれて自分の追求したいテーマを大学生と一緒に、
あるいはコーディネーターと一緒にどういうことを追求していこうかっていうこと検討し
ていましたが、「ムトスの学び」とか、「みらい創造科」もそうなんですが、素朴な疑問を
追求しがいのある課題っていうことにしていくには、ただ単に考えてみましょうじゃなく
て、それなりの支援や伴走がいるなあっていうことを改めて感じたところでもあります。高
校生でもそうですので、小中学生とかそういう課題を課題としていくまでの過程もすごく
大事だなということを感じたところです。

それから次の南信美術展の授賞式に行って、その前に作品も拝見したんですが、いずれ

も本当に力作といったら失礼ですが、上から目線ではなくて、下から目線で素晴らしい作品ばかりだなと思いました。特に印象に残ったのは、その写真にあるのは白黒ですみませんが、ジュニア部門という高校生の作品で、これも力作が多かったなあと感じました。紹介してある審査員の講評は一番右の大きめに映っている真ん中にりんごがある作品です。そのほかのあと3つも全部、高校生の作品なのですが、非常に個性的な力を皆さんが発揮されているというふうに感じたところです。

さらに驚いたのは、その次のページになるんですが、94歳の林さんっていう方の作品「霊峰風越」。94歳の方で鼎中学校に猫のベンチみたいなをつくっておられたりする。もともとは彫刻家が主でいらっしゃるんです。その先生の作品のものであったりとか、その右は100歳の久保田さんという方が弁財天を彫られています。実は課長さんたちにも「どれが高校生でどれが100歳の作品ですか」って前に聞いてみたんですが、「作品だけ見れば全く分からない」っていうのが正直な感想でした。いずれもこの美術という世界は本当にすごいなと思ったのは、年齢に関わらず、そのエネルギーを作品に表すっていうこと、若い、ベテラン関係ないんだなということを改めて驚きますし、感動もしました。

それから3つ目は、「カンボジアスタディツアー」の出発式が7月12日の土曜日に行われました。今回は15名の募集のところ17名集まったということであります。2名だけ落とすのもということでプラス2名を公民館のほうで増やしていただいて、元気なスタートができたかなあとと思いますが。

まあ今年、今回の特徴は、昨年度の参加者が3月で発表したときにも聞きに来ていましたし、今回このときも全員ではありませんが、去年の参加者がアドバイスに来るっていうような、そういうつながりのあるスタートだなということが特徴だなということも思いました。非常に事前学習も充実していたという話もお聞きしました。

それから4つ目は、第20回ということで記念の会ということで、市長と私も呼んでいただいて、「千栄こども夏祭り」に行ってみいました。ここの特徴は、公民館主導ではなくて地域の地区ごとの会長さんが回り番で一番の主催者となって、地域の皆さんが運営していることです。例えば夜店みたいなテントの下にそういうものをつくって、要は子どもたち、千栄の子どもたちに夏の楽しい思い出をつくってほしいっていう願いで、ほかの祭りとはちょっとニュアンスの違った手づくり感いっぱいの温かい雰囲気のお祭りだったなあとということでありました。

子どもたちは減ってはいるんですが、20回のうちコロナでできないときもありましたので、長きにわたって地域の皆さんが、「子どもたちのために」というその行動に非常に敬意

を抱いてまいりました。

あとは、ちょっと古くなりましたが、月日がたってしまったので。6月に行われた市議会の定例会の一般質問で出された内容と回答でありますので、また、時間のあるときに御覧いただければありがたいというふうに思っております。

以上、私からの報告事項でございますが、何か今の報告事項について質問やらご発言がありましたらお出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですか。はい、ありがとうございます。

日程第6 議案審議（2件）

○教育長（熊谷邦千加） それではこれより、議案審議に入ってまいります。

議案第72号 学校医の任命について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第72号、「学校医の任命について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは、議案第72号、学校医の任命について、ご説明いたします。

学校保健安全法第23条第1項及び同条第3項に基づき、川路小学校、三穂小学校及び竜峡中学校の学校医として矢野秀実氏を任命したいとするものでございます。

提案理由は、学校医であります市瀬武彦氏が体調不良で対応できない業務があるため、一般社団法人飯田医師会から学校医の増員による適任者として推薦があったため、令和7年7月1日付けで任命したいとするものでございます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑、意見等ありましたらご発言ください。

いかがでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは、これより議案第72号の採決をいたします。

本案を原案どおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 72 号は、原案のとおり決定をされました。

議案第 73 号 令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、議案第 73 号、「令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 続きまして、議案第 73 号、令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、ご説明をさせていただきます。

認定対象者につきましては、別紙にお配りしてあるとおりでございます。

それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第 5 条第 1 項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者と認定くださいますようご提案申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑、ご意見等はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） では議案第 73 号を採決いたします。

本案を、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 73 号は、原案のとおり決定をされました。

次の日程に進みます。

日程第 7 協議事項（2 件）

○教育長（熊谷邦千加） 「協議事項」であります。

協議事項 1 令和 7 年度運動会・文化祭への教育委員等の出席について

○教育長（熊谷邦千加） 協議事項の 1 つ目、「令和 7 年度運動会・文化祭への教育委員等の出席について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは、令和 7 年度運動会・文化祭への教育委員等の出席につ

いてご説明いたします。

12 ページを御覧ください。

本年度の運動会・文化祭への教育委員等の出席を希望される学校等が複数ございましたので、出席につきまして日程調整をさせていただきたいと存じます。出席を希望される学校及び開催日程等は、13 ページの教育委員等出席希望学校一覧のとおりでございますが、8月6日水曜日までにスプレッドシートのほうに入力いただきましてご回答をお願いしたいと思います。

ご出席いただく学校につきましては、次回8月の定例会にてお諮りをさせていただきます。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） それではこの件につきまして、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは、またスプレッドシートのほうに入力というお願いでございますが、よろしく願いをいたします。

○教育長職務代理者（北澤正光） すみません、素朴な質問です。

○教育長（熊谷邦千加） どうぞ。

○教育長職務代理者（北澤正光） 対応可能な日にちのところに丸か何かをこのシートのところで入れてお返しすればいいということですか。

○学校教育課長（伊藤 寿） そのとおりでお願いいたします。

○教育長職務代理者（北澤正光） どこか一日に絞る必要はないということですね。可能なところをずっといくつか丸しておく、あと調整していただけるということで。

○学校教育課長（伊藤 寿） させていただきたいと思いますので、ご都合を入力していただければと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 複数回答で可能な場合は、お願いしたいということでもあります。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

協議事項2 「飯田市立小中学校における医療的ケア実施に関するガイドライン」の改訂について

○教育長（熊谷邦千加） 協議事項の2でございます。「飯田市中小中学校における医療的ケア実施に関わるガイドラインの改訂について」を議題といたします。

説明をお願いします。

北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） それではよろしく願いいたします。

資料ですが、ペーパーで別冊にてご用意させていただきました。付箋、青色で「旧」と書いてあるものと、黄色で「新」と書いてあるものがそれに該当するものであります。

まず、少し計画等ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

現在、飯田市立小中学校における医療的ケアは、旭ヶ丘中学校の二年生の1名のみでございますが、来年度令和8年度には丸山小学校において医療的ケア児が入学する、つまり就学する予定であり、その後も医療的ケアを必要とする児童・生徒が市内小中学校に在籍する可能性がございます。

現在のガイドラインですが、青い付箋になります「旧」というものであります。こちらは、令和3年の12月に作成、そして令和4年の1月に策定されたというものでございます。

この「旧」のほうのガイドラインですが、就学時の申請に関わる記載や新たに医療的ケアを申請する手続き等の記載、あと新たに医療的ケアを実施する上での保護者、主治医、学校、教育委員会それぞれの役割についての記載が少なく明確でなかったため、来年度から入学してくるお子さんのことを考えますと少し見直したほうがいいのではないかと考えました。あわせて、それに伴う申請や依頼等に関わる書類も改訂する必要があると考えております。

今回の改訂として考えておりますのは、こっちの「新」のほうになりますが、ちょっと量がこんなにも厚くなっておるんですが、大きく3つほどが見直して追記してございます。

ガイドラインの1ページを御覧ください。一枚めくっていただいて。「旧」のところと大きく変わってきておりますのでは、このガイドライン1ページの8番、「医療的ケア実施に係る各手続きについて」というところを（ア）から（ク）まで細かく充実させてございます。その中でも、特に（ク）に関わる「手続きに係る必要書類」につきましては、「旧」のところを補いながら付け加えてきているというものでございます。

もう1点は、「医療的ケアの実施に向けた役割」ということで、同じくガイドライン1ページの大きい9番の部分になります。これも「旧」のものを基にしながらも、それぞれの果たす役割ということで項立てしてございます。

飯田市立小中学校に在籍する児童生徒一人一人の将来の自立や社会参加のために、必要

な力を培うという視点に立ちまして、一人一人の定期的ニーズに応じた適切な支援、指導を行うためにも、今回この改訂が必要ではないかと考えました。

今回このように提案させていただきましたのは、このようなガイドラインはどのように見直していくかっていうところを、少し私、過去のものを見させていただきましたところ、このように定例教育委員会に諮りご意見を頂戴して、さらに次の教育委員会で改訂するものをご提案させていただくと、そんな手続きをしてきておったものですから、今回ここで提案させていただきました、ご意見等頂戴し、また改めて提案をさせていただきたいと思っているところでございます。

ちょっとタイトなものになっているものですから、今すぐここにというわけではございません。見ていただいてご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 短時間で見て何か意見をいただくというふうには多すぎるので、現時点での何かご質問等あれば、お聞きいただきたいと思います、いかがでしょうか。

素朴な疑問も含めていただいて。

○教育長職務代理者（北澤正光） これも素朴な質問です。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 該当するお子さんがいる場合に、新しいガイドラインをざっと見させてもらったんですが、看護支援員さんという方がつくことが書かれているのですが、その方は学校の養護教諭とかとは別に、その子専用、看護師資格を持った方が支援員として日常的に常時つくということでよろしいですか。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） ありがとうございます。

おっしゃるとおりでありまして、現在、特別支援教育支援員が各学校に配置されておりますが、その中に看護資格を持った方が3名いらっしゃいます。今の旭ヶ丘中には、もう既にそのような資格を活用していただくということで、特別支援員プラス、看護支援員ということで入っていただいております。

来年度の入学予定になっております丸山小学校のことにつきましては、これを少し見越しまして、今年度から看護資格を持った方を特別支援教育支援員として、いただいております。

現在、教育センターの担当者、学校、現在在席中の保育園、それと保護者等含めてもう

協議を進めておりまして、どのような支援がどのぐらい必要かということで進めております。まさに先生のおっしゃるとおりでございます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、どうぞ。

○教育長職務代理者（北澤正光） 今回、話題にすることではなくて、さらに詰めをされて、次回とかの提案のときに言うべきことかもしれないのですが、私も2つの中学校でかなり重い障がいとか、それから医療的な配慮を必要とするお子さんが在籍されて、そこに関わってきた経験があります。

そのときに、この「新」のガイドラインの中にも書かれていたと思いますが、命に関わる部分については、専門家が最大限とにかく配慮して進めるということは当然のことですが、日常生活を送っていく上で一番大事なのは、一つは職員がその子の状況についてこういうときにはこういうふうに対応するということについて、看護支援員さんだけにお任せではなくて、職員がみんなで共有しているということがすごく大事だということ。それからもう一つは、保護者の方の了解を得て、どの範囲までを全校の生徒に、私の場合は中学生だったのですが、共有しておくかということがすごく大事だということを、そのとき思いました。

というのは、日常生活をずっと学校の中で進めていくときには、一番そばで接し、身近に見ているのは子どもたちなのです。だから、子どもたちにどのレベルまでの共有をして進めていくかというのは、その当人にとっても、学校生活を快適に進めるために必要ですし、それから周りにいるその学校に在籍する子どもたちにとっても、その子の状況を知っていることは、普段のちょっとした、例えば階段で出会ったときに手が貸せるとか、何かちょっとしたところで配慮が見せられるとか、そういう意味ですごく大事だというふうに思いました。

こういうお子さんが在籍してくれることで、実は学校として配慮が必要となって大変なこともあるのですが、その一方、学校の子どもたちや職員が学ぶことのほうがもっと多いということを、私はその2つの学校ですごく痛感しました。というのは、先生方も子どものことにすごく細かいところまで配慮するようになるし、それは当事者のその子のことだけではなくて、その子を見る目を通してほかの子どもについても目線が細くなるということと、それから周りにいる子どもたちの目線がやっぱりすごく細やかな配慮をするようになる。今この該当の子は何を求めているのかなとか、何を周りで気をつけなきゃいけないのかなといったところに細やかな配慮が子どもたちできるようになって、結果的に学校

全体が何かすごく柔らかい風が吹くというのでしょうか、かなり飛び跳ねた子どもたちがいる強烈な学校だったのですが、こういうケアが必要な子がいてくれるおかげで、学校全体がお互いを思いやるような、和やかで、優しい雰囲気になるということを経験した思いがあります。この在籍するお子さんについてこういう配慮してもらいながらですが、お互いの学びの財産になるということも、受け止めながら進めたいというふうに思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

よろしいですか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また何か疑問点やお気づきの点があったら、遠慮なく事務局のほうへお知らせいただければというふうに思います。

それでは協議事項のほうについては以上にしたいと思います。

次の日程に進みます。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 「陳情審議」でございますが、本日は陳情審議はございません。

次に進みます。

日程第9 その他

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第9「その他」で最初に（1）番、「教育委員報告事項」。

教育長職務代理者、あるいは教育委員の皆様方からご報告がありましたらお願いをいたします。

じゃあ、林委員。

○教育委員（林 綾子） ちょっと時期が遡るところから、3点報告をさせていただきます。

まず、6月16日の月曜日になりますが、小中一貫教育推進会議ということで、これちょっとだいぶ遡るんですが、学園構想が始まって初めての小中一貫教育推進会議ということでしたが、ああいった形でされるのは初めてかと思いますが、ワールドカフェ方式で出てきた委員さんを何グループかに分かれていただいて、目指す子どもの姿と学園のグランドデザインということを皆さんでちょっと模造紙に書き出して、いろいろと共有していました。その中で感じたのは、ほとんどの委員さんが模造紙の中にすごい長文をたくさん書いて

ていただいております、普段からそういった思いを持っていただいて、学園構想に前向きに取り組んでくださっているんだなという様子で、心強く思いました。

また、最後にリモートで見てくださっていた井出委員さんからいただいた言葉が結構私の中では印象に残りまして、「真ん中に子どもを置いて違う方向からそれぞれ見ていく」と。その「小中一貫教育というか、学園構想を進める上で、向きが違っても同じものを見ていくっていうことを共有していく」というような話がありまして、なんとなく私のイメージとして、みんなで横一列に並んで同じ目標に向かって進みましょう、みたいなイメージをしていたんですが、そうではなくて「子どもを真ん中に置いてみんなで違う方向から見て」というようなことをおっしゃっていました。それぞれのグループでの話合いの中でも、地域の方や校長先生って立場が違いますので見えているものも違って、思いもそれぞれ違うと。でも、それでいいんだなっていうことを改めて感じさせてもらって、そういった多様な大人の関わりが多様な子どもとのより良い関わりにもつながっていくのだろうかというふうに感じました。

次は7月18日、先週行かせていただきました、三遠南信教育サミットですが、講演と3市村の事例発表、それから掛塚祭屋台囃子を実際に見せていただくということで、また交流会でも意見交換をたくさんさせていただいて、とても充実の内容でした。

中でも私自身が非常に気になったというか、印象に残ったのが豊川市の「戦争遺跡を活用した平和学習」という事例発表でした。ちょっと知らなかったのですが、今の豊川市の形っていうのが、豊川の海軍工廠ができたことで今の豊川市の形が始まったんだっていう、その市の成り立ちに深く関わる場所に戦争という歴史があるということで、子どもたちがそういったふるさと学習と平和学習を両方の意味でやられているということで、その内容もやっぱり遺跡としてしっかり残っている平和公園があったりしますので、自分たちにとってふるさと学習っていうのがイコール平和学習になっていて、深く心に刻まれる内容だろうなというふうに感じました。

また、その平和公園というのが、実際に使われていたところっていうのは珍しいようで、「広島や長崎に次ぐ」という説明をしていただきましたので、近くに行った際にはぜひ訪れてみたいというふうに私自身は思いました。

続いて、7月22日火曜日ですが、南信教育事務所の学校訪問に帯同させていただき、緑ヶ丘中学校を訪問してきました。

「参観はない」というふうに聞いていたんですが、ちょっと中学校のほうで参観もさせていただきまして、全体的に落ち着いた雰囲気、それから先生方が大変熱心に取り組んで

いるということを説明受けました。ただ、非常に熱心故にちょっと負担感がある先生方もいらっしゃるのかなという印象でした。

また、校長先生や教頭先生たちのお話から感じたのは、生徒たちにもっと自分の思いを出してもらいたいというような思いがあるのかなと。大きな規模の学校ですので、またそういうダイナミックなことが、もっとできるのじゃないかみたいなことを感じていらっしゃるのかなと。また、校長先生は「学園構想のみらい創造科ということをよい機会として何かそういったことに取り組みたい」というふうに、前向きに考えていらっしゃるようでした。

その中で、キーワードとして「対話」っていうことを大変考えていらっしゃるようで、「先生方や子どもと対話しながら、そういったことを進めていきたい」というふうなご報告があって、非常にありがたいなというふうに感じました。

また、飯田市関係でありましたが、ネットワーク環境ということで、緑ヶ丘中もちょっとネットワークの環境に関して不安定なところが特にあるとあって、学習を進めていく上でも難しい面があるということでしたが、その訪問した当日も何かそういったネットワーク環境のテストをやっていて、「一生懸命やっていただいてありがたい」ということを言っていただきましたが、よりよく環境が整うようにしていけたらなというふうに感じました。

また、もう1点ちょっと知らなかったんですが、「働き方改革の面で長期休みを少し短めにして、4時間授業や5時間授業の日を設けるようにしています」ということで、もしかしたら昨年伺ったときに聞いていたかもしれないんですが、ちょっと今回印象に残りまして、平日に余裕を持たせることで、お子さんやあと先生たちの余裕をつくっていくっていうことを取り組まれているということで、いい取組だなというふうに感じて帰ってきました。

最後にもう1点報告です。今日来ている美博に7月21日の日に、子どもと伺いまして、早速新作のプラネタリウムの「ドラえもん」を見せていただきました。やはり新作だし、「ドラえもん」だしということでプラネタリウムの中が満席でして、みんなにとって楽しめるいい作品がまた出ると、皆さん喜んでくれるなと改めて感じたので、またぜひ伺いたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

あの、今の緑ヶ丘のネットワーク環境は前からそういう申し出があり、人数の多いところにどうしても一斉に使うとつながりにくいと。今、一番困っているのは原因がなかなか

見えないので分からなくて、昨年もサーバーを、たくさんお金をかけて交換してよくなるだろうって言われて交換しましたがよくならないっていうようなこともあったりします。

様々に今どこが原因なのかを調べている最中ということです。

○教育委員（林 綾子） そのテストの最中だというふうに伺いました。

○教育長（熊谷邦千加） またご承知おきください。

○教育委員（林 綾子） はい。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

報告がありましたら。

野澤委員さんお願いします。

○教育委員（野澤稔弘） 7月14日に主幹帯同ということで、竜峡中学に行ってまいりました。

6人の先生方とお話させていただいて、共通に話が出ていたのが「お子さんたちは非常に大人しい」と。「反面、主体性にちょっと欠ける部分があるのが心配です」という話が出ていました。

それから、「先生方が若い先生とベテランの先生と何か別れているような状態になっているので、そのところのコミュニケーションがうまくいかないところがあるよ」というようなところが話として出ておりましたが、岡本校長先生が「それって子どもたちにとってどうなのかな」という問いかけを常に持って先生方と接しているということで「子どもたちにとってどう」というその問いかけでうまく回っていったのかなというふうに感じて帰ってまいりました。

それから三遠南信教育サミットですね。あの中でいろいろな発表がありましたが、印象に残っているのはお城の話です。「国境にたくさん砦があるときは国境の警備が非常に行き届いているということです。侵略戦争が終わってそこが平定されると、その砦は不要になる」というそんなお話をされていて、今の世の中なんとなくこの国も「自国が一番だ」みたいな形でやっていますが、そういうのも戦争じゃなくて言葉で解決して、そういう境というものができるだけフリーになるような社会になるといいな、そんなことを感じながら帰ってまいりました。

関税だといってやっていますが、植民地政策によるブロック経済に端を発し、第2次世界大戦が始まったということを考えると、関税を使った同様なことをやっていいのかなと思っているところに、そういうお話をいただいたので、やっぱりいろんな意味で我々は自由であるべきじゃないかなと感じ、そんなことをこれからの世界で実現できればいいなと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　ありがとうございました。

北澤職務代理をお願いします。

○教育長職務代理者（北澤正光）　7月9日に、長野市で県の市町村教委連絡協議会の代議員会があつて、飯田下伊那を代表する形で代議員として出席させていただきました。

今回は、県教育委員会と県の市町村協議連との懇談会という形の内容でしたので、県の教育委員会からは武田教育長をはじめ、10課の課長全員が参加するという、今まで何回もこの会に参加しているのですが、説明する内容があってもなくても全課長が参加して、しかも教育長も含め、会議の始めから終わりまで全出席をするというのは、初めて経験しました。今回のテーマが「これからの学校改革について」というテーマでの話し合いだったので、県教委も本気で取り組んでいるのだなというその意気込みを感じてきました。

そのテーマのところで「飯田市の取組を発表しろ」と、全く前触れなく突然指名をされて、ちょっと面食らってしどろもどろしてしまいましたが、「多様性のある学校づくり」についてというようなことで、今進めている学園構想の状況について報告をしながらですが、その中で特に言ってきたのは、学校のあり方だけではなくて、飯田市のこれからの学校のあり方を地域の皆さんも含めて一緒に考えて話し合ったりしていくことで、学校だけではなくて、飯田市のこれからのそれぞれの学校がある地域のあり方とか、地域の未来とか、そういうことも含めて考えるようなふうになっていくと、学校を一つの話のきっかけにして、そうやっていくといいなということで、ボトムアップ大事にしながら、ちょっと遠回りのように見えるが、そこをポイントとしているという話をさせていただきました。

それからもう1点は、「部活動の地域展開について」とテーマでした。こちらはお聞きしていると、多くの自治体から「移動方法についての困難」が非常に多くの自治体からの指摘をされていました。県のほうからは、「今年度、国の実証事業に県内55市町村が参加して、今年度までのところは移動についての補助金等が出ているが、令和8年はそれが見直しという方向なので、状況を共有して国のほうにも今後要望していく」といった答えでした。

次、2点目は、私も丸山小学校に主幹と帯同。7月15日に行ってきました。丸山小学校では、「特別活動を大事にして良好な人間関係とか学級づくりを学校運営の一番基本にしている」という説明がありました。実際のお話を7人のそれぞれの各部署の先生方から短時間ですがお聞きしました。皆さん口々に言っているのは、「初任者を含めた若い先生方が多くて、学校全体にとっても活気がある」と。その一方で、「60代以上の再任用の先生方が公

務をうんとリードしてくれていて、結局、若い活気のある職員に 60 歳以上のそのベテランの再任用の先生方が丁寧に教えてくれるということがあって、まとものいい職員集団になっていることが嬉しい」というような言葉が何人もの先生からあって、学校として安定した運営がされていることを感じました。

もう 1 点は、「校内中間教室が設置されて、そこに 6 名、追手町の中間教室に 1 名が利用できているために、現在、完全不登校の状態のお子さんは 1 名だけで、そのお子さんとも連絡が取れてフリースクールを利用することになっているので、完全不登校というお子さんは 0 だ」というような話もありました。学校挙げていい運営がされているということを感じて帰ってきました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

なお、麦島委員からは、活動報告 2 件について送っていただいておりますので、御覧をいただければなというふうに思います。

それでは、それぞれご報告いただいたことにつきまして、何かご質問やらご発言がありましたらお願いをいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では次に進みたいと思います。

（２）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （２）番、「教育次長報告事項」。

何か次長のほうから報告がありましたらお願いします。

○教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

では次に進みます。

（３）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （３）番、「教育政策課関係報告事項」。

上沼教育政策課長。

○教育政策課長（上沼昭彦） それでは、令和 7 年度第 1 回飯田市これからの学校のあり方審議会を開催いたしましたので、この概要について説明させていただきます。

日程第9の資料の3ページから資料が付いております。

資料5ページを御覧ください。委員の名簿、新たな委員の名簿を掲載してございます。パブリックコメントや議会等からの意見を踏まえまして、今審議会では、女性の委員や子育て世代の委員を増やしてございます。また、新たな審議会の会長に前回同様、後藤正幸氏、副会長に新たに三浦弥生氏が選出をされました。

審議会の議事といたしましては、審議会への諮問事項の確認、令和5年度及び令和6年度の審議会の状況、またこの4月よりスタートした飯田学園構想、そして今後の審議の方向性について説明をさせていただきました。

7ページに諮問事項を掲載しております。

諮問事項といたしまして、これからの時代の教育に対応したより良い教育環境づくりに向けた「これからの学校のあり方」について、基本方針を策定するため、飯田市小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方についてと、特色と魅力ある教育活動のあり方の2点について諮問をしたので確認しております。

資料8ページからになりますが、令和5年度及び6年度の審議のまとめについて、経過等を説明させていただきました。資料が多いのでポイントのみ説明させていただきますが、令和5年度5月25日の第1回審議会以降、令和5年度は6回の審議会、審議を開催いたしまして、審議を通じまして令和6年4月11日に同審議会より「飯田市と学校を取り巻く環境の変化への対応に必要な方策について」ということで、1次答申をいただいたということです。令和6年度については、審議会からの1次答申を踏まえた「今後のあり方に関する方針～第1次～」の事務局案について質疑、ご審議いただき、方向性を確認した上で、パブリックコメントや地域協議会からの意見を踏まえ、飯田市教育委員会10月定例会にて1次方針を決定し、この4月からの飯田学園構想につながっている旨、説明させていただきました。

資料少し飛びまして17ページからとなりますが、今年度より取り組んでおります飯田学園構想について説明いたしました。

こちら資料が多いですので、ポイントのみ説明となりますが、中学校区の小中学校を小中一貫教育を行う学園として規定したこと。義務教育9カ年の学びの系統制と連続性を高め、各学園で教育目標や目指す子ども像を共有し、小中学校の教員が一体となって教育活動の充実を図ることで、子どもたちが変化が激しく先行きの見通し難い時代を生き抜いていく力の基礎を、これまで以上にしっかりと、そして豊かに育んでいくということ。そして小中一貫教育の核となる教科になります「みらい創造科」を新設し、児童・生徒が課

題を設定して、その解決に向け主体的に、そして仲間と協働しながら学びを進めていく「ムトスの学び」、この実践を通じて各学園の特色を生かした魅力的な教育活動を推進し、児童生徒にとって「通いたい学園」、地域や保護者にとって「通わせたい学園」の実現を目指しているということ。小中一貫教育の推進体制や「みらい創造科」の策定に向けて、新たに各学園に学園地域コーディネーターを配置し、学園内の学校間の連携、また学園・学校と地域と連携、それをより充実していきたいということ等、取組の説明をさせていただいております。

続きまして、また資料飛びますが、32 ページから審議会における今後の方向性について、説明をさせていただいております。

資料 33 ページになりますが、諮問事項について確認し、その上で諮問事項（１）「飯田市立小中学校のこれからの配置・枠組みのあり方」において、学校施設の配置に関しては継続審議になっているということを確認しております。加速する少子化、劣化する学校施設等を考慮すれば、可能な限り早期に答申をいただき、方針を定めて行動につなげていく必要がありますが、学校が果たす役割や国の適正規模等に関する審議の進捗に鑑み、慎重に議論を進め、第２次答申、第２次方針の策定につなげていきたいと考えていること。

そして資料 35 ページになりますが、これまでの経緯を踏まえまして、今後の議論の内容として『飯田学園構想』を着実に実施し小中一貫教育の充実を図り、特色があり、魅力的な教育を進めるにあたり、小中学校の配置・枠組みはどうあるべきかという観点から、諮問事項『飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について』、先を見越した議論として審議会で議論進めていきたい。」ということ。

「現段階では当市は、学校再編の基本的な考え方やあり方を定め、それに向かって教育委員会主導で再編を進めていくといったトップダウン方式はとっておらず、学園地域の課題感、危機意識の状況を見定めながら、協働で学園内の学校のあり方を検討していく、いわゆるボトムアップ方式をとっている。」ということ。

そして「今後の審議におきましては、このボトムアップの方式による議論のメリット・デメリット、これまでの議論を踏まえた学校の規模、いわゆる小規模教育のメリットやデメリット、今後の学校施設の配置のあり方を優先的に検討する学園やその検討の進め方、また定めることの必要性も含めまして、当地域の地域的・地理的特性等を踏まえた望ましい学校の規模等について議論を進め、令和７年度から令和８年度の２カ年で一定の方針を示したい。」、その旨説明をさせていただいております。

資料 36 ページになりますが、今後策定する第２次方針の基本的な考え方の案といたしま

して、令和6年度第6回の審議会、昨年度の最後の審議会で提示した視点と今後の論点について、改めて確認をしております。

基本方針といたしましては、第1次方針である「飯田学園構想」を着実に実施し、小中一貫教育の充実を図ること、これを第一に、飯田市立小中学校のこれからの配置・枠組みについて議論を進めていくこと。また、検討するに際しては、以下5つの視点を持って検討していきたい旨説明しております。

視点1、「児童生徒の教育環境の充実を最優先に考える。ただし、学校は地域の将来担い手や支え手となる人を育てる機能を有していることにも配慮する。」

視点2、「個別の学校の状況だけでなく、学園内の学校全体の状況を考慮すること。」

視点3、「保護者や地域の課題意識の高い学園や安全面と課題があると考えられる学園を対象としていくこと。」

視点4、「具体的なあり方の検討は、保護者、学校職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し、協議を重ねて方向性を定めていく。」ということ。

視点5、「教育移住の推進等、児童生徒数の維持・増加に向けた取組を地域を挙げて推進することが見込める学園については、その効果等を考慮する。」この5つの視点でございます。

また、この論点といたしましては、「飯田学園構想」を着実に実施し学園において特色があり、魅力的な教育を進めていくための教育環境とはどのような状態なのかを地域における児童生徒数、また施設の面から検討していくということ。

学園地域においては、あり方の検討に入る契機、また検討体制を検討していきたい旨説明をさせていただきました。

なお、今後の審議の進め方について委員からは、「各学校・学園の活動の様子について、引き続き情報を提供してほしい」という意見。また、「ボトムアップで議論を進めていく上で、先ほどの視点4、具体的なあり方の検討では、保護者、学校教職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し、議論を重ね方向性を定めていく。この視点が大切である」という意見。一方で「ボトムアップは非常に大切だが、教育委員会からも案を示していかないとなかなか先に進まないのではないか」。「ある程度提案するような形で対話を進めていくような方向がよいのではないか」といったご意見をいただいております。

我々といたしましては、今後の審議の進め方について、委員の皆様のご理解をいただけたものと認識しております。

なお、第2回の審議会は、9月29日を予定しております。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 大分説明が長くなりましたので、何かご質問、ご意見がありましたら
お願いをいたします。

よろしいでしょうか。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 直接、審議会のことについてはありませんが、23ページの
学園地域コーディネーターの配置のことで今ご説明がありました。

さっき報告事項のところで「丸山小学校へ帯同した」と話したのですが、初任者の非常に情熱的なのか熱がある初任の先生と話をしました。その方は地元の出身ではなくて諏訪市の出身の方で、初任で大学を出てすぐ丸山小へ来たと。今、五年生の担任です。

地域について学ぼうと思って、子どもたちとも一緒に学ぼうと思って意気込みはあるのだが、飯田に来て間もないので地域のことをほとんど知らない。先輩の先生方にも教えてもらいながら今授業を組んでいるのだが、というような話をその彼がしていて、そういうときに、その学園地域コーディネーターが、その彼と絡んでもらえると、その先生にとっても非常に有効な力になるのかなと思います。コーディネーターをこういうふうに配置していただいたことは、これから進めていく上でいい方向だというふうに思っています。

コーディネーターの皆さんも、まだ着任したばかりで、本当に何を仕事にできるのかというようなところは手探りだと思うのですが、コーディネーター同士の情報共有等は、ぜひ丁寧にやってもらって、学校にそういうふうに生かせるといいなと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

野澤委員。

○教育委員（野澤稔弘） この第2次方針の基本的な考え方案というところの視点が5つありますが、この社会にとって学校っていうものは何なのかっていう視点と、この学園構想の地域にとってこの学園は何なのかという視点、このどこかの視点に入るのかなと思いながら見ていました。

教育以外に社会資本としての学校の位置づけっていうのは、非常に大きなものがあると思いますが、そういったものを、この学園構想の理念というか、そういったところで何か引っ張り出せるところがあると、その地域のサポートの得やすさだったり、学校のその地域の位置づけだったりっていうのが、より明確になってくるのかなという気がします。

どこの視点の部分にそういうのが入るかなと思いながら見ると、そういった視点もぜひ、どこかに加えていただけると嬉しいと思いました。

単純に子どもたちを育てていく場というだけではなくて、地域にとっても大切な場だからこそ、地域の人たちが学校をサポートしているってところがあると思うので、そういったところも加えたほうがいいのかなと思いました。

○教育長（熊谷邦千加） 秦野次長。

○教育次長（秦野高彦） 今のご指摘のところなんですが、私どもとしましては、視点3、視点5ににじませてあると思っております。

今後の第2次方針にあたって、学園の配置・枠組みというところが入ってくるっていうところと、もう一つは、今、飯田市全体でも人口減少が起こっていて、学校だけではなくて地域のあり方そのものっていう部分が検討の材料になってくるかな。そういうようなところが視点3の地域の課題意識ですとか、あと視点5になっていきますと、その教育移住って学校の維持だけではなくて地域の維持そのものになってくるというようなこともありますので、私どもとしましては、この3と5というようなところが中心になりながら、今、野澤委員がおっしゃられた視点をどのように明確に打ち出せるかどうかということも含めて検討を続けていきたいと思います。

よろしくお願いします。

○教育長（熊谷邦千加） さらにございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また後で全体を通してでもお聞きしますので、言い損ねたことが出てきましたらお話いただければと思います。

それでは次に進みます。

（4）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （4）「学校教育課関係報告事項」。

○学校教育課長（伊藤 寿） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（5）教育センター関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（5）「教育センター関係報告事項」。

○教育センター所長（北澤孝郎） よろしくお願ひいたします。

ページでいきますと 41 ページからになります。

まず、41 ページのところにありますが、『夏体験活動』へのお誘い」とあります。これは主に不登校及び不登校傾向のお子さんを対象としました、毎年夏に行っているものであります。普段とは違うと人・もの・ことと出会い、自分を解放して楽しい時間過ごすっていうことを目的に、場所なんです、阿智村智里にあります「天魚パークランド」を舞台にこのような魚のつかみ取りであったり、またさばいて串に刺して魚を焼いて、そして食べるというそんな体験をしたいと思っております。7月26日土曜日の開催の予定であります。

続いてまいりたいと思います。次の 42 ページになります。今年度の三遠南信の中学生の交流会についてであります。

昨年度は、飯田が受入れだったということで、とても多い人数にご参加してもらったわけですが、今年度は豊橋市が会場ということで、各中学校 8 校から各 4 名、遠山中 1 校からは 2 名ということで生徒数 34 名と支援者、教育委員会を含めまして 12 名の 46 名で 8 月 5 日 6 日に行ってまいりたいと思います。なお、今週末 26 日の土曜日に結団式を行いまして、打合せをする予定であります。

続きまして 43 ページになります。今年度の飯田市園小連携推進委員会でございます。

学園構想の手前の部分、保育園と小学校との接続のところに関しまして、このような推進会議がもうかなり長く平成 22 年辺りから行われてきております。その令和 7 年今年度のものでございます。7 月 30 日水曜日ですが、そのような会議の内容で進めさせていただきたいと思っております。

なお、このような会議で話し合われたことが各保育園、各小学校できちんと共有されているかどうか、そこまで見極めて進めてまいりたいと思っております。

続きまして 44 ページへまいります。第 2 回「みらい創造科」研修会についてであります。

「みらい創造科」の第 1 回の研修会は、6 月 10 日に田中光顕先生をお招きして行われました。第 2 回目ですが、8 月 8 日金曜日、長野県教育長、武田育夫先生をお招きしてテーマは「ウェルビーイング実践校 TOCOTON 新しい学校が当たり前と探究的な学習のあり方」と題してご講演をいただきます。

今のところ参加人数が 50 名ほどになっておりますが、まだ 8 月 8 日まで少しありますので、さらに声をかけて参加してもらいたいと思っております。

続きまして 45 ページのものになります。「令和 7 年度『下伊那授業研究会』について」

であります。

これは何かと申しますと、昨年度まで「教育課程研究協議会」といいまして、長野県教育委員会、市町村教育委員会、そして郡市校長会の3者共催で行われておりました研究会でございます。教育委員の皆さんにはいくつかの会場に出向いていただいて、代表としてご挨拶いただいていたものであります。

令和7年度今年度は、来年度以降の運営面や実証内容について前提的に議論する年ということで、研究協議会はないのですが、それに代わる授業研究会ということで下伊那校長会が主催して行おうとしておるものであります。

教育委員の皆様には何かをしていただくということはないのですが、今年度、校長会が飯田市内12校で12会場でこのような研究会を開催しますので、もしご希望がありましたら、私、申込みをしたいと思いますので、次のページ、ちょっと細かくて恐縮ですが、いくつかの教科ございますので、お申し付けいただければと思います。

また、来年度のことにつきましては、今後また話し合われていくと思いますので、その様子からまたご報告させていただきたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 諸々いくつかございましたので、ちょっと確認をいただきたいと思います。

今の説明につきまして何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

（6）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして（6）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それでは、資料の48ページを御覧いただきたいと思います。まず、「H a g u」を今回使ってちょっとご説明させていただきたいと思います。

このような形で、7月に市内の子どもさんのお宅のほうへ配布をさせていただいております。その中で、今年は戦後80年という一つの節目を迎えておるわけですが、そういう中で、平和祈念館のほうで8月2日・3日の土日ですが、特別展の「資料は語る 見て触れて 繰り返る戦争の時代」と題しまして特別展を予定しております。

特に今回は「H a g u」の中にも写真を入れさせていただいておりますが、砲弾だとかそのときの服だとか、あとおもちゃだとか、そういったものに実際に来場いただいた方に触れていただいて、その質感だとか重さだとか、そういったものをリアルに感じていただくこと目的に特別展を予定しております。

また3日の日曜日ですが、11時から飯田短期大学の皆さんにご協力をいただきまして、戦時中の炊き込みご飯の試食ができるように工夫をさせていただいているところでございます。ぜひ、もしよろしければご参加をいただければというふうに思います。

それから同じ48ページの右側の下になりますが、伊勢市との交流が今年度からお互いの市へ訪問するという形の伊勢市との交流というのは昨年度までということで一区切りさせていただきまして、今年度、飯田市のほうでは、これまでの伊勢市との交流をパネル等にして図書館に展示させていただいて、少し伊勢市との交流というか伊勢市のことを知っていただけるような、そういうブースを設けさせていただいて、細く長く関係性が続くように取り組んでいければということで予定をしておりますので、また機会がありましたら御覧いただければというふうに思います。

続いて49ページ以降になりますが、「風越山トレイルマラソン大会」でございます。

昨年は70回の記念大会ということで、ゲストの皆さんもお招きする中で、盛大に開催させていただきましたが、今回は通常モードで開催をさせていただきます。

今回のトレイルマラソン大会ですが、できるだけ親子での参加を期待したいということで、昨年度まで親子で参加した場合、2,000円の参加料をいただいておりますが、こちら500円値下げしまして1,500円でご参加いただけるように負担といいますか、お金のほうを少し軽減させていただいたところでございます。

また、先日ですが、飯田風越高校のほうにもお邪魔をさせていただきまして、この大会と飯田風越高校との連携した運営だとか大会の盛り上げができるように、今ご協力をお願いしているところでございます。特に、昨年は、開会式のところで書道部の皆さんのパフォーマンスを行っていただいたりしておりますので、今年も何らかの形で応援いただけるということで進めさせていただければと思います。

続きまして、53ページになります。飯田市の公認地域クラブの申請状況でございます。

昨年度、いわゆる中学生期の学校部活動の地域クラブへの移行ということで、推進計画を策定させていただきまして、いよいよ本年度、具体的な公認クラブを認定して、そちらのほうに活動を移行していく段階に入ってきているところでございます。現時点でその公認の地域クラブの申請の状況、そちらの資料にもありますとおり、現在12クラブの申請が

出てまいりまして、認定に至ったクラブは 11 クラブという状況となっております。

御覧いただいたとおり、認定クラブはこのようなクラブが認定されてきております。まだまだ今年度、認定というか申請がまだ出てくる予定でおります。おおむね 20 くらいいくのではないかというふうに思っているところでございます。

あわせて、こういった公認の地域クラブの活動を支援するための補助金制度も今年度新たに創設しまして、現在、その申請も受け付けているところでございますが、現在までのところ 2 件の申請をいただいております、それぞれ申請のあったところには既に補助金を交付させていただいているところでございます。

競技の種目によってこういった公認クラブの進みがいいところと、まだまだ指導者がなかなか見つからなくて進んでいないところがございまして、おおむね各種目動き出してきていると、そういった状況でございまして。

続きまして最後になりますが、55 ページになります。第 82 回の国民スポーツ大会、第 27 回の全国障害者スポーツ大会の開催が 7 月 16 日に決定となりまして、新聞やテレビのほうでも報道がされておりますが、いよいよ日程や開催について決定をしてきたところでございます。

当飯田市におきましても、2028 年、令和 10 年になりますが、10 月 1 日から 10 月 11 日まで飯田市においては弓道と高等学校の軟式野球の 2 種目が行われることとなっております。弓道については、10 月 2 日から 5 日まで、軟式野球につきましては、10 月 7 日・8 日と一日空まして 10 日にそれぞれ試合が行われる予定になっております。

まだ日にちが決まったばかりではございますが、現在、市役所の A 棟の北側の東中軒さんの側のところから見ていただくと分かるんですが、縦長の懸垂幕をかけさせていただいたり、教育委員会の所属にはなりますが、ノボリ旗を立てさせていただいているところでございます。

具体的にこういった啓発活動については、大会の 500 日前、ですから約一年半前にカウントダウンボードを設置したりして機運を高めていくという形になろうかと思います。今年度、飯田市としては、この大会を行っていくための実行委員会の立ち上げまで今年度中に行いたいというふうに予定しているところでございます。引き続きのご理解、ご協力をお願いできればと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　ここも報告事項たくさんありましたが、何かご質問、ご意見ありましたらお出しただけだと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(7) 文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（7）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にありません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(8) 公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（8）番、「公民館関係報告事項」。

○市公民館副館長（小林和弘） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(9) 文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）番にまいります。「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長お願いします。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは文化会館から3点お願いいたします。

資料は、データと本日人形劇フェスタのガイドブックをお配りしておりますが、飯田フォークフェスタのチラシのページが56ページになりますので、御覧いただければと思います。

9月7日日曜日ですが、「飯田フォークフェスタ」というイベントを開催いたします。これは11年前に第1回を行いまして、今回が5回目となりまして、最終回というふうなことになっております。なぜ最終回かといいますと、やはり支える側もそうですし、出演いただくこの「六文銭」の皆さんがこれまでも飯田に何回も来ていただいておりますが、小室等さんが今81歳という年齢ということがありまして、実行委員会としても今回が最終回かなということです。有終の美を飾りたいということで、鼎の文化センターを満席にしたいということで、今チケット販売を行っております。15日が発売初日でしたが、7時に並んで買っていただいた方もいらっしゃいまして、やはりもう長年ファンとして応援していただく方も、この地域にもいらっしゃるかなということを実感しておりますので、まだ

まだ時間がありますのでお広げいただけたらと思っております。

続きまして、2 番目「にこにこステージ」ということで、小さなお子さんと子育て中のお父さん、お母さんのためのコンサートということで開催するものでございます。

こちらは8月30日土曜日ですが、鼎の文化センターで9時40分からのものと11時15分からのものと2回行います。今回は、飯田市の市民吹奏楽団に出演いただいて、お子様に楽しんでいただけるアンパンマンですとか、ミッキーマウス、そういった馴染みのある曲で公演を行うという予定でございます。

最近の傾向といたしまして、お父さん、お母さん一緒に参加いただく、お子さんと一緒に参加いただくということで非常に小さなお子さん、0歳からということで抱っこしながら参加いただくということになっておりますので、こちらのほうもお近くにそういった方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただければと思います。

3点目、最後になりますが、いよいよ8月7日から10日まで「いいだ人形劇フェスタ」ということになりますので、こちらのご案内になります。

人形劇フェスタに関しましては、人形劇カーニバルから数えて今年で47年目ということになります。既に公民館の主事の皆さんを中心としたプレフェスタということも、今月の18日・19日ということで行っておりますが、いよいよ本番が7日から10日までということで、本日プログラムをデータでお配りしておりますが、特に教育委員会に関係しますところといたしましては、小学校・中学校の人形劇のクラブ、または授業で行っている上演があります。各地区で上演される場合と文化会館、ムトスぷらざでも行いますので、ぜひお近くのところで御覧いただければと思います。

また、人形劇場でオープニングセレモニーを行います。会場の都合で教育委員の皆さんにご招待はいたしません。が、当日来ていただいても結構です。し、ぜひ「お別れパーティー」には、おいでいただければと思っております。

近年、非常に暑いということが課題になっておりまして、もうこれは中央公園で行っていたセントラルパークにつきましては、ムトスぷらざの2階へ引っ越して行っておりますが、各地区の公演に関しましても、暑さ対策に十分配慮しながら行うということになっておりますので、そういったことも含めて安全にフェスタを実施したいと思っております。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

続けて（10）番に併せてあとでお伺いしたいと思います。

(10) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） 図書館から2点お願いいたします。

1点目、63ページのご案内を御覧ください。飯田市立図書館こども読書活動推進講演会のご案内です。

7月31日に「絵本から物語へ」というテーマで講演いただきます。絵本を読んでもらって楽しむ体験をしていますが、文字のみの本を自分で読むことへの移行がうまくできない子どもさんや、読み応えのある本を読むことができないという子どもさんが今、少なくないという状況があります。この講演会では、子どもたちが本の楽しさを知って自分から読むようになるために、絵本から物語への橋渡しをどんなふうにしていくことができるだろうかという話をお伺いします。

岡山県の公立中学校で司書としても勤務をされておりました小幡章子さんに、小中学校での実践を基にお話をお伺いします。講演会の後には、参加された方それぞれの立場で何ができるか、一緒に考えるワークショップを行う予定であります。

それから65ページの内容を御覧ください。中央図書館開館110周年記念事業の一つとして、「としょかんマルシェ」を9月23日に行います。

次のページに記載してありますように、多くの方のご出展をいただくことができました。37の出展をいただきまして、人形劇であったり、紙芝居であったり、あるいはワークショップ、ミニライブなどを行います。図書館内1階のスペースでミニライブを行ったり、人形劇や紙芝居を行なったりするなど、普段と違う雰囲気の図書館になると思われます。今まで図書館に来ていただいたことがない方もおいでいただければと思います。

各出展ブースに関連の本を並べていただいて、その本を間にして参加者の方と出展の方とお話していただくということも考えております。本と出会ったり、出展の方と交流していただいたり、そんな場になればと考えております。

出展の方は、図書館の中と屋根のある駐車場のところに配置となりますので、図書館の中、ちょっと狭い形になりますが、いつもと違う雰囲気を楽しんでいただければと思います。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それでは、文化会館関係と図書館関係を併せて何かご質問、ご意見ございましたらお願い

いします。

いかがでしょうか。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（11）「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館は、3件ご案内をさせていただきます。

まず、資料 67・68 ですが、8月の「びはくにゅーす」でございます。

この期間、プラネタリウムですが、夏休み投影期間ということで8月1日から8月15日までは土日と同じ4回投影を行うということになっておりますので、御覧いただければと思います。

先ほど林委員からお話ありましたが、現在「ドラえもん」の投影をしております、大変賑わいがございます。毎回満室になっている状況でございますが、キャラクターを使いながら今、最先端の宇宙の情報まで含めたとても良質な番組になっていますので、本日の研修会で時間があれば少し見ていただこうと思っておりましたが、また時間のあります時に御覧いただければというふうに思います。

それから一番下のところですが、柳田館・日夏館も7月23日から8月22日までの間は平日の特別開館をやっております。普段、平日は申出開館になっていますが、この期間はいつでも入れるようになっていますので御覧いただければと思います。

続いて、裏側に行きますとページ数でいきますと68ページになりますが、そのうちの自然講座です。9月6日に自然講座がありまして、「遠山郷の『かぐらの湯』は特異な泉質と地質であると判明」ということで、いよいよ遠山郷の「かぐらの湯」が再開いたしますが、それにあわせて「かぐらの湯」の泉質についての話で、今回のボーリング調査で明らかになった経緯がございますので、当館客員研究員の坂本先生のお話がありますので、お聞きいただければと思います。

2点目になります。69・70ページになりますが、8月2日に「ワクワクびはくで夏休み」を開催いたします。

いくつかのワークショップを美術博物館で開催するイベントでございます、この日は入館無料、展示観覧も無料ということになってございます。

いくつかワークショップがありまして、7月17日からもう既に予約が始まっているんですが、既に「ミニプラネタリウムをつくろう」というワークショップは満室になっております。そのほか「化石レプリカをつくろう」とか「とうめいボトルでコケリウム」というのもあとわずかになっている状況でございます。あといくつかのワークショップはまだ空いていると思われますので、ご予約いただければというふうに思います。

続きまして71ページから73ページでございますが、こちらは夏休み期間中に行う「5館スタンプラリー」のご案内です。

7月19日から8月24日の期間に当館と上郷考古博物館、秀水美人画美術館、遠山郷土館、上村まつり伝承館の計5館のうち4館を回っていただくと、プレゼントがもらえるという内容になっています。こちらのほうもご利用いただければと思っております。

ただ、期間中、高校生以下は展示観覧が無料でございますが、本館と上郷考古館、遠山の郷土館は普段も高校生以下は無料なのですが、指定管理の上村まつり伝承館は普段は高校生以下も観覧料が必要になっていますから、この期間は無料ということでご観覧いただきたいと思います。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは資料の74ページ・75ページ、今日お配りの第22回飯田市地域史研究集会のチラシを御覧ください。

本年度の地域研究集会ですが、9月6日・7日に「農業から拓く飯田下伊那の歴史」をテーマに飯田市役所会場にオンライン併用で開催します。

農業は、飯田下伊那の人々が生きるための大切な基盤であり、稲作、畑作、養蚕、果樹栽培など、風土や時代、状況に合わせて多様な営みが現在も積み重ねておりまして、政治、経済、風俗、景観など様々な点でこの地域のあり方に影響を与えております。今回の研究集会では、農業生産と技術の歴史に着目し、それと結びついた地域の暮らしや社会の姿を多様な視点から浮き彫りにしたいと考えております。

1日目は、開会行事の後に歴史研究所の顧問研究員である横浜国立大学教授の多和田雅保さんに「農書に見る江戸時代の飯田」と題した基調講演をお願いします。

また、自由論題としまして京都大学大学院の町田 良さんに龍江地区の都市開発に関する報告と、歴史研究所の満州移民ゼミに参加されます青島重行さんにご自身の祖母の日記を通じた満州移民についての報告してもらいます。2日目は10時から今回のテーマのシンポジウムとしまして、趣旨説明の後、松本大学と中央大学の大学院講師の福島紀子さん、歴史研究所特任研究員の竹村雄次さん、柳田園男記念伊那民俗学研究所の寺田一雄さんの3名に、それぞれの専門分野における農業に関する研究報告をしてもらいまして、4人目としまして長野県南信農業試験場の場長さんであります小川秀和さんには、来年設立して100年を迎えるということで、「南信農業試験場の一世紀を振り返る」と題しまして報告いただいた後、全体での討論会、意見交換を行います。時間がありましたら関心がある部分だけでも結構ですので、参加をいただきたいと思います。

また、この集会に関連しまして、社会教育機関同士の連携ということで毎年お願いしているわけですが、8月23日から9月19日まで中央図書館におきまして、この地域に関する農業関係の図書の展示コーナーを設置して、関心を持った方がそういう本を見やすいようなそんな環境つくっていくという、そういう事業も同時に行っていますのでよろしくお願いします。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） それでは美博の関係、歴史研究所の関係でご質問、ご発言等ありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 報告事項全体を通して何か言いそびれたことがありましたらいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

ちょっと白黒のところは見えづらかったところがあったかもしれません。ご容赦いただきたいと思います。

（13）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは（13）番、「今後の日程について」、事務局より説明をお願いします。

北澤総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月） 7月定例会の資料にお戻りください。資料の4ページにございます。

(13) 今後の日程についてということで、筒井館長の報告のとおり、8月7日から10日まで人形劇フェスタが開催されます。連日暑い日が続いておりますので、熱中症等予防をいただきながらご参加いただければと思います。

期間中になりますが、8月8日はみらい創造科研修会が市役所A301・302会議室で開催予定です。事前に皆さんご参加の有無を確認しておりますが、変更等ありますようでしたらまたご連絡をいただければと思います。

8月20日は、本年度の市町村教育委員会と長野県教育委員会との懇談会がございます。教育長と職務代理者が出席の予定です。

8月21日は、8月定例会を県公民館3階学習展示室で予定をしております。本日と同様、本庁ではございませんので、ご留意いただければと思います。

8月25日は、飯伊市町村教育委員会連絡協議会、こちらは合庁で教育長と職務代理者が出席の予定です。

8月27日水曜日は、令和6年の4月以降に教育委員になられた方を対象に、新任教育委員の研修会が長野市で開催されます。飯田市は、麦島委員が対象となり参加を予定しております。

9月定例会は記載のとおりですので、もし北澤所長の報告がありました下伊那授業研究会に参加を希望される場合は午前中のみ参加となってしまいますので、ご容赦いただければと思います。

本日の資料に間に合わず恐縮ですが、8月4日月曜日に教育委員会の第2回臨時会を開催予定です。詳細は改めて通知いたしますが、時間は13時から、会場は市役所本庁C棟3階311・312会議室となりますのでよろしくお願いします。

今後の日程については以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程につきまして、何かご質問等ございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

では次にまいります。

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第10「閉会」。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了をいたしました。

以上で終わりにします。

もしこの後、プラネタリウムの。

○美術博物館副館長（槇村洋介） ちょっとご案内をいたします。

○教育長（熊谷邦千加） もし可能であればということで。

では、以上で終了といたします。

ありがとうございました。

閉 会 午後 4 時 3 5 分